

1 基本理念

高齢者数は年々増加しており、高齢化が進展しています。また、いわゆる団塊の世代が75歳以上となる令和7年(2025年)を見据え、医療、介護、介護予防、住まい及び自立した日常生活の支援が包括的に確保される「可見市地域包括ケアシステム（Kケアシステム）※」を深化・推進してきました。

令和7年(2025年)が近づく中、いわゆる団塊ジュニア世代が65歳以上となる令和22年(2040年)に向け、介護ニーズの高い85歳以上人口の急速な増加が見込まれ、さらに高齢者の単独世帯や夫婦のみの世帯、認知症の人の増加も見込まれるなど、支援を必要とする人がさらに増加し、複雑化・複合化した支援が求められています。

また、「支える側」、「支えられる側」という関係を超えて、「我が事」として地域に参画し、「丸ごと」つながることで、一人ひとりが生きがいや役割を持ち、助け合いながら暮らしていくことのできる地域共生社会の実現に向け、地域包括ケアシステムは、重要な役割を果たします。

そのため、地域包括ケアシステムの推進や地域づくり等に一体的に取り組み、地域共生社会の実現を図っていきます。

**住み慣れた地域で
安気に暮らし続けることができるまち 可見**

2 基本目標

(1) 健康で生きがいをもって暮らせるまちづくり〈自助〉

高齢者一人ひとりが、元気に地域で生活を続けるために、健康づくりと介護予防を推進していきます。また、高齢者が、これまで培ってきた知識や経験、能力を生かし、地域におけるさまざまな分野で、就労や多様な社会活動等に参画する機会を確保するなど、生きがいをもって暮らすことができる環境づくりを進めます。

(2) 地域のあらゆる団体が連携して見守り・

支え合えるまちづくり〈共助〉

医療・介護・予防・住まい・生活支援の一体的な提供を図る地域包括ケアシステムの深化・推進に向け、地域で生活支援の体制づくりを推進するとともに、地域全体に支え合いの意識を広め、地域で高齢者を支援する地域福祉活動の充実を目指します。

(3) 適切なサービスが過不足なく提供され

安気に暮らせるまちづくり〈公助〉

地域における身近な総合相談窓口として、地域包括支援センターの充実を図る等、関係団体等と連携した支援体制を推進します。さらに、安心して必要なサービスの提供を受けられるよう、地域に密着したサービス提供体制の充実や、介護予防、認知症施策などを通じて、住み慣れた地域で安心して生活できるまちづくりを目指します。

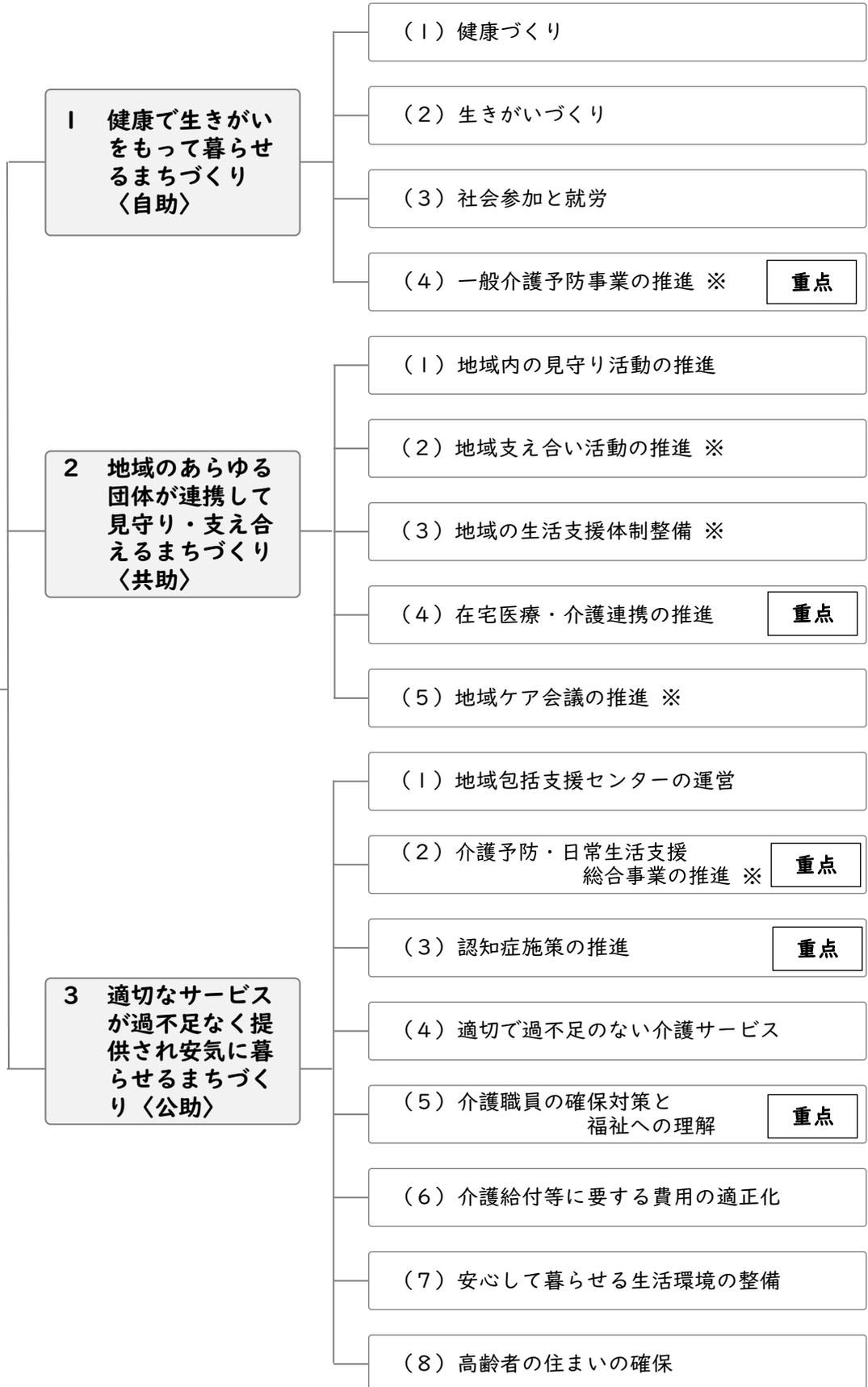
3 施策体系

[基本理念]

[基本目標]

[施策の方向性]

住み慣れた地域で安気に暮らし続けることができるまち
 可児



※は特に自立支援・重度化防止に資する施策として位置付けます。